

8 直射日光、高温多湿な場所を避けて下さい。

正しい保管方法



陽の当たらない倉庫
や物置等の屋内

誤った保管方法



直射日光、風雨の当
たる屋外やビニール
ハウス内等

- その他 注意点**
- ①本製品は翌年への持ち越しができませんので開封後は使い残りの無いように全量使い切して下さい。
 - ②生育不良や病原菌等の混入の恐れがありますので、他の培土、資材との混合は避けて下さい。
 - ③本品は水稻専用培土ですので他の作物には使用しないで下さい。

一般粒状培土との違い

一度乾燥すると水をはじきやすくなります

袋開封後の長期保管×
事前土詰め×

灌水の際水がゆっくり落ちる

状況によって灌水スピードを調整して下さい

ハウス内での灌水

水持ちが良くなっているため、慣行の水管理よりやや控えめで大丈夫です

生育について

出芽、初期生育は一般粒状培土に比べやや遅れますが、問題はありません

ソイルスマイルカルカル製品仕様比較

規格/銘柄		ソイルスマイルカルカル		一般培土	
袋当り包装単位 (容量/重量)		30 l / 19kg		20kg	
フレコン当り包装単位(容量/重量)		1200 l / 760kg	600 l / 380kg	1,000kg	
pH (H ₂ O)		4.5~5.5		4.5~5.5	
EC (mS/cm)		約0.80 (寒地)		約0.65 (寒地)	
製品水分		約25%		約20%	
嵩比重		約0.6		約1.05	
1箱当り (18mm) 肥料成分 (覆土込み) g/箱		寒地用 N-P-K 2.0-3.0-2.0		寒地用 N-P-K 2.0-3.0-2.0	
灌水 (床土に灌水)		1 l ~ 1.2 l ※無加温出芽の場合: 約1.5 l		1 l ~ 1.2 l	
箱枚数・ 床土厚 18mm	1箱当り床土量	約1,500g		約2,700g	
	1箱当り覆土量	約500g		約700g	
	1箱当り総量	約2,000g		約3,400g	
1袋(フレコン) 当りの箱枚数	床土のみ	約14枚/袋	約280枚/600 l 約560枚/1200 l	約7枚/袋	約350枚/1 t
	覆土含む	約10枚/袋	約200枚/600 l 約400枚/1200 l	約5枚/袋	約250枚/1 t
仕上り	25日育苗 (稚苗) 箱付苗重量/1箱	約4,000g~4,500g		約6,000g~7,000g	

※箱の形状により箱枚数が減る場合があります。

軽量培土でラクラク作業

軽量水稻培土

ソイルスマイルカルカル



育苗の手引き



ソイルスマイル
カルカル
4.2kg

従来培土
6.3kg

床土のみ使用

…約14箱/袋

床土・覆土で使用

…約10箱/袋



販売元 秋田共栄物産株式会社

発売元 興国肥料(有)

ソイルスマイルカルカルで 健苗を育てるために!!

土詰め、その前に

使用前の保管は直射日光、高温多湿を避けて下さい

育苗箱

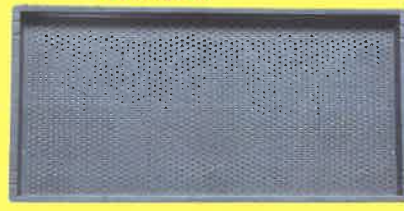
稚苗用
ダイヤカット

敷紙...×



中苗用
成苗用

敷紙...○



稚苗用、ダイヤカットへ敷紙を使用すると灌水時、水がたまりやすくなります。

作業手順

1

床土量

床土厚...**18mm**
重量...約**1,500g**



を目安に
入れて下さい

※袋を開封して長期間置いたり、播種日より前に土詰めを行うと、土が乾燥する恐れがあります。播種直前の袋開封、土詰めをおすすめします。

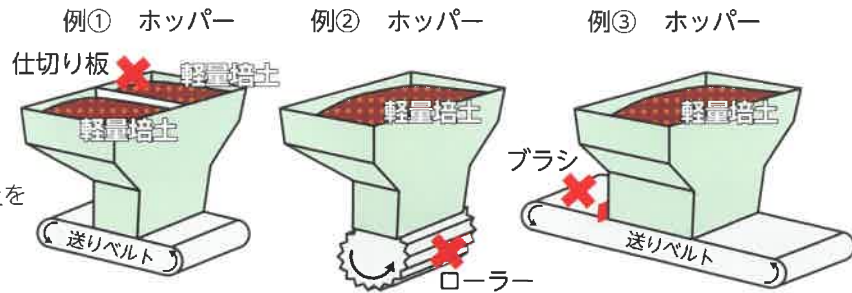
注意事項 播種機の確認

現在お使いの播種機については概ねご使用可能です。

下記項目に該当する播種機の場合、事前に確認して下さい。

粒状培土に比べ、流動性が若干劣るため事前に播種機でのテストをお奨めします。

- ホッパーの落ち口の幅が狭い播種機【例①】
- 送りベルトが極端に短い播種機(特にベルト表面に凸凹がない、ツルツルしている)【例①】
- ローラー式の播種機【例②】
- ホッパーの出口がブラシになっている播種機【例③】
- ホッパー内に仕切り板がある播種機(仕切り板でブリッジする場合があります)【例①】
- 昇降機を利用してホッパーに培土を供給する播種機(投入口でブリッジする場合があります)



2

灌水量

①積重ね加温出芽 **0.8~1.0ℓ**

②無加温出芽、ハウス内自然出芽
1.0~1.2ℓ

消毒について

一般培土同様リゾプス属菌等の予防を兼ねて殺菌剤による消毒をおすすめいたします。



※灌水量不足は根上がりの原因となり、灌水過多は出芽不良につながります。一般粒状培土に比べ水がゆっくり落ちますので状況を見て灌水スピード調整を行って下さい。

3

覆土量の目安

覆土

●ソイルスマイルカルカル

重量：**約500g** 厚さ：**5~6mm程度**

●一般粒状培土

重量：**約900g** 厚さ：**5~6mm程度**



箱内の水が引いたら粉が隠れる程度に覆土する

◇覆土を厚くしすぎると粉が窒息し、出芽不良の恐れがあります。
◇無加温出芽の場合、根上がりを防止するため、やや覆土量を多くして下さい。

覆土後の灌水は絶対にしないで下さい。

4

①(出芽器使用)加温出芽の場合

設定温度：**28~32℃**で**48~60時間**が目安です。出芽長：**1cm以下**

※棚式より積み重ね方式をお勧めします。

※出芽器に長期間入れたまま放置すると軟弱苗の原因になりやすくカビの発生や芽が伸びて上部箱を貫通し作業に支障をきたす場合があります。



出芽

②積み重ね式無加温出芽の場合

高さは**30段以下**にしビニール、シルバーポリ等で完全に被覆する。

出芽期の
注意点

- ※出芽揃期に覆土の持上がり、根上がりが見られたら速やかに灌水して下さい。
- ※種籾の露出している部分には再覆土(補正覆土)をして下さい。
- ※極端な低・高温は出芽不良のおそれがあり、乾燥はタコ足の発生に繋がります。
- ※苗代(置床)は排水の良い場所を選び高低をならして均平化を図って下さい。

③折衷苗代、自然発芽の場合(箱下吸水)

○育苗箱を苗代に並べ、直後に箱厚1/3位まで水位を上げ、その後出芽までは水位を落として下さい。

○出芽終了時は育苗箱の底面に水が浸る程度の水位にする。

④畑苗代、自然平床出芽の場合(箱上吸水)

○置床の高低をならし均平化を図り、水をたっぷりかけて下さい。

5

①前期

○直射日光や低温を防いで下さい。

○温度管理は**昼間20~25℃、夜間15~20℃**が目安です。

○育苗箱の底面は置床の床面と密着させて下さい。

②後期

○温度管理は**昼間15~25℃、夜間10~15℃**が目安です。

○低温、日照不足が続く時は立枯病、ムレ病の発生のおそれがあるので予防処置をして下さい。

③全般

○灌水は午前中にたっぷりかけて、午後からの灌水は控えて下さい。(曇天の場合には灌水量は少なめにして下さい)

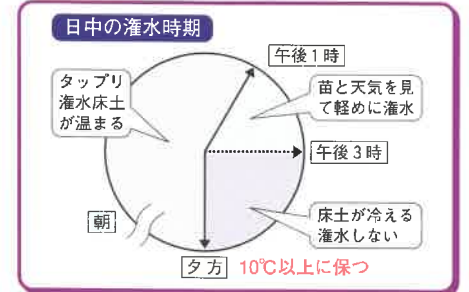
④低温時の育苗ポイント

○低温であればあるほど、一般粒状培土に比べ、出芽・生育がやや遅れ気味になりますが、商品特性のため、問題はありません。最終田植の前には追い付きませ。

○極端な低温時には保温マットで保温して下さい。

○ハウスの側面に防風板を設置すると端の部分に冷気が直接当らなくなります。

○灌水量は少なめにして下さい。



6

追肥

○肥料不足の傾向が見られる場合には地域の指導要領に従い追肥して下さい。

7

田植え

○苗の補充(つぎ足し)は早めにして下さい。

○苗の滑りが悪いときは、苗の横面を軽く突いて下さい。

○田植機のかき取り本数が少ない場合は、苗に灌水するか本体のかき取り調整をして下さい。